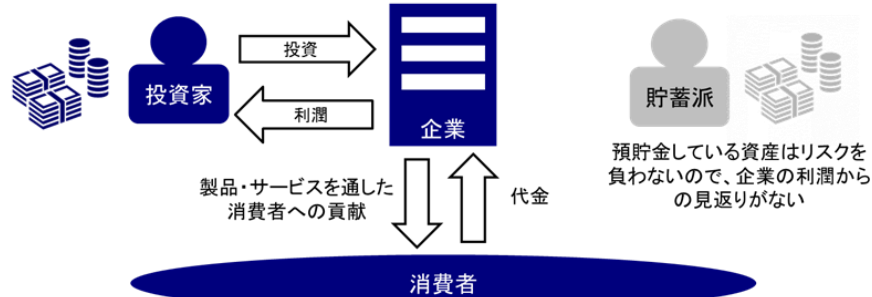


ATTENTION

株式投資は金儲けではない – 社会的使命を帯びた行為



**資本家の「投資」が企業を通じて雇用を創出し、
消費者に製品・サービスを提供する。**

株式投資で儲かったという話は、よく聞きますが、そこには投機ののにおいを感じます。しかし、本来株式投資は、社会システムで非常に重要な役割を果たしています。株式投資は、投資先の会社に資本を提供します。それは会社の血液にあたります。会社は、そのお金を使い、人を雇い工場を作り、よい物やサービスを提供して、社会に貢献して正当な利潤を得ます。そして、資本を提供してくれた投資家に、株価の上昇や配当金でお返します。投資家が投資したお金は戻ってくるという保証はなく、投資先のリスクを負っているのに対して、預金はリスクを負っていないので、会社の利益に応じた見返りは得られません。また株式投資は、自分が汗水流して得たお金を投資先の会社に提供し、そこで働かせて、その見返りを得る行為といえます。いわば自分の分身が会社で働いているので、80歳、90歳になっても自分が働いているのと同じになります。また、株式を保有しているということは、会社の一部を保有するオーナーということです。こういう臨み方で選んだ会社に投資して、株価が上昇し、配当金をもらい、それが増配で増えていけば、いくら年齢をとっても張りのある生活ができるでしょう。このようにして築いた富は積み上がり、売ったり買ったりして得た利益と大きな違いになります。

COLUMN

痴ほう症を防ぐ方法-歩く！

米国の有力な投資情報誌バロンズに「なるほど」という記事がありましたので紹介しましょう。特に60代以降の人に役立つ情報です。

米国の70代の人の中で3分の1の確率で、死ぬまでに痴ほう症にかかるとの研究結果が出ているとのこと。それに対処する方法は「歩くこと」。たくさん歩くことにより、アルツハイマーなど痴ほう症になるリスクが大きく減るというのです。(米国神経医学会誌)。もっとも効果があるのは1日9800歩歩くこと。1日3800歩だと25%罹患するリスクが減り、早歩きで、毎日およそ30分で6000歩歩く人は、62%も減るとのことです。そして理想的には1日9800歩。ぶらぶら歩きはあまり効果がないそうです。

人類は、100万年もの間、一日中歩き回って食糧を求め、飢餓に苦しんだ長い歴史があります。現在は歩かなくても食べ物は手に入り、空腹にもならず済んでいます。人類の長い歴史をたどれば、人間は歩く必要があり、身体は時には空腹になることを欲しているともいえるのです。

よく考えてみれば、私たちは京都まで新幹線であつという間に行ってしまうますが、昔の人は、東海道五十三次、箱根の山を越えて歩いて江戸から京都まで行ったのです。松尾芭蕉は、奥の細道を歩きました。お伊勢参りも徒歩。昔は歩いてどこかに行くことが当たり前だったのです。私たちが「徒歩」があまりにも少ないのは、実は驚くべきことなのです。痴呆症にならないためには「歩く」。今年は「歩く」ことを心がけたいものです！

MARKET

(12月末)

(11月末比)

日経平均

26,094.50円 ↓ -1,894.49円 (-6.70%)

NYダウ

33,147.25ドル ↓ -1,442.52ドル (-4.17%)

米ドル

131.15円 ↓ -7.00円 (-5.07%)

私の書棚より

布施-物心の両面から贈り物をする
愛語-親切な言葉をかける
利行-相手の利益をはかる
同事-相手の身になって援助する
『四摂事』(仏教 渡辺照宏著)

米国株投資は、長期投資のスタンスで！

2022年も米国株投資が日本株を上回った(円安で)
 2022年、世界の株式市場は厳しい市場環境だったといえるでしょう。米国の代表的株価指数S&P500は、2021年末から19.4%下がり、ハイテク株が多いナスダック総合指数に至っては33.1%も下がったのです。この下げ幅は、実に2008年のリーマンショック以来の下げです。日経平均は、その間9.4%の下げですから、米国に比べれば小幅の下げと言えば小幅です。ただし円/ドルレートは、10月一時151.94円をつけた後、急激な円高になったとはいえ、2021年末からは13.9%の円安。円換算のS&P500は8.2%の下げにとどまり、ほとんどの人が為替をヘッジしていないことを前提にすれば、2022年も、大きく下がった米国株投資が、日本株投資の成果を上回っていたことになりませう。このことは、見えにくい驚くべきことといえてよいでしょう。

米国のハイテク株はまさに暴落

ただし、いずれにしても下げは下げ。特に米国ハイテク株は、主だった銘柄でも、メタ(Facebookの親会社)、エヌヴィディア、アマゾン(2021年末から2022年末まで50%から64%も下がり、ハイテクでも比較的安定していたアルファベット(グーグルの親会社)、マイクロソフト、アップルでも26%から39%も下がったのです。こういう銘柄は、米国に限らず、日本からもたくさん買っていたことを思えば、大きな痛手を負った人は多かったことでしょう。

時間軸を長くすると、全く違う風景

しかし、ここで、1年といわず、時間軸を少し長く見てみましょう。たとえば5年。5年の間では、メタの32%下落は別にして、アマゾンが+43%、アルファベットは+67%、マイクロソフト、エヌヴィディア、アップルに至っては3倍前後に上がっています。実はこれら全部が入っているナスダック総合指数は、この1年では33%も下がったといっても、5年では41%も上がっているのです。この通り1年と5年では、だいぶ風景が変わります。

ただ、ここで問題は、ほとんどの人は1年程度あるいはそれより短い時間軸で投資していることです。そのようなやり方では、この1、2年では、円安が傷を浅くしたとはいえ、大きな成果を上げることはできなかったでしょう。

短期は危険、長期で大きく報われる

この1年と5年の時間軸の違いによる投資成果を見る通り、株式投資は時間軸をできるだけ長くとることが必須です。米国株式市場は、株価の値幅制限がなく、一日で半値になってしまうこともよくあります。短期で売買していると、いつ、こういう事態に遭遇し、取り返しのつかない結果になるとも限りません。米国株式市場ほど長期投資が報われる株式市場はないといえてよいでしょう。そのよい見本が、世界最高の投資家、ウォーレン・バフェットの投資成果です。55年にわたり、年率20%以上の投資成果を上げています。そのバフェットはこういっています。「株式は、10年、20年持つ覚悟で買わないと意味がない。」

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
 代表 尾藤 峰男
 公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
 代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
 携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp